



AEFA フレンド会報

アジア教育友好協会 Asian Education and Friendship Association (AEFA)

〒168-0071 東京都杉並区高井戸西2-14-49

電話 03(3506)7302 /FAX 03(3506)7301 Email: office@nippon-aefa.org

新春号では、環境をテーマに交流している小山田小学校と、キリスト教精神に基づきNGO活動を行う横浜雙葉高校のお二人の校長先生にお話を伺いました。

<特集>町田市立小山田小学校

“地球規模で考えると小山田小学校とサムソップ小学校の環境への取り組みは同じだと思います。”

Q：日本で初めてフレンドシップ校になられた決定的な理由は何でしたか？

西岡校長先生：最初にお金を出してもらえないかという話があったんですが、それは断ろうと思ったけど、逆に小学生が自分たちで働いた対価でお金を得て、それをあげたら面白いと思いました。そういう主体的な意味でのフレンドシップ交流をしたいと思いました。去年から竹炭を作っていたので、竹炭を売ったらお金が入る、そのお金を学校に使うんじゃなくて、学校外のものに使いたいという希望を最初から持っていました。それは渡りに船という感じでした。

Q：この交流はうまくいっていると思われませんか？

西岡校長先生：今は5,6年生を中心にしていますが、今年1年は種まき期間だと思っているんです。この期間にできるだけたくさんのお話をしたり、ビデオを見せたりして、5年生が6年生になったときに実際の行動ができるようにしたいと思っています。最終的に6年生が卒業するときに、5年生たちに引き継いで、この交流を本格的にスタートさせようと思っているんです。サムソップ村との交流の形はできた。これから子どもたちとのんびりゆっくりやって行こうかなと思っています。



地域の人の指導を受けて竹を切り出す子ども達



小山田小学校 校長西岡先生

Q：環境教育の成果、試みを小山田株式会社という形で実現されようとしているのですか？

西岡校長先生：そうです。「地域を愛する子どもたちを育てたい」というのが私の一番の願いです。そのためには地域でひとつのものを起こして、さらにいろいろなものに派生させていきたい。その中心が『環境にやさしい学校』であり、その学校でみんなが取り組む小山田株式会社を作る。そこでは、お金は異文化交流で送ることができるし、竹炭を焼くことは川をきれいにするという理科の勉強にもつながられる。子どもたちが組織の中で課題を解決していくというひとつの大きな枠ができていく。株式会社という組織で、自分たちがどの位置にいて、どういう風にしていけばいろいろなものに影響を及ぼせるのか、環境というものをトータルライズしたものとして考えることができると思っています。

Q：さらに将来を見据えた夢はお持ちですか？

西岡校長先生：『5年後にこの学校が地域の発電所』というのが私の夢なんです。せっかくこの近くに一級河川の源流があるので、その川を使って電力をおこしたい。また南向きに建てられた校舎で、ソーラーシステムで電気をおこし、学校の夏休み、冬休みに使わない余剰電力を地域に売ることができないかということを考えています。

「出来た竹炭で川に堰を作り、川の浄化作業をする」、「川は水が流れているだけだけど、機械を置いたら電力がおき、学校が発電所になった」。「小さな力が活きるんだ」ということを実感させたいんです。身の回

りのあたりまえのことを学校で実証してあげることが、子どもたちが環境を考えたり、自分の夢を実現することにつながります。

Q：国際交流ではどういう夢、ビジョンをお持ちでしょうか？

西岡校長先生：サムソップ村と交流することは、小さな交流だと思いますが、地球的な規模で環境を考えると、日本の東京の小山田でやっている活動とタイのサムソップ村でやっている活動は同じだと思うんですね。自分



12月14日、6年生は近くの竹林の竹を切り出し、一本一本長さを揃えて切り、乾燥させるため竹を組むまでの作業をしました。

＜特集＞横浜雙葉高校

“生徒たちは活動を通じて、心のふれあいの大切さに気づき、援助は物だけでない、物と心の両方が大切なんだということがわかりました。”

Q：フレンドシップ校になられたきっかけは何でしたか？

千葉校長先生：私たちはヨーロッパから援助をもらってこの学校を作ったわけですが、今度は私たちがキリスト教の学校として、今まで頂いたものをどこに返すべきかと考えていました。そして「やっぱりアジアに返そう、アジアの隣人を大切にしたい」というのがひとつの大きな望みでした。具体的にどういう形でアジアの人たちに関わっていけるかということを模索していた時、AEFAから話がありました。生徒たちの意識をグローバルにという学校のひとつの目標と合致したというのが、フレンドシップ校になったきっかけです。本当に貧しい、困っている子どもたちとの出会いの中で、私たち自身が育っていく大きなきっかけになると思いました。

Q：4つのNGOと協力して生徒さんが活動を進めていましたが、その中でAEFAの活動はいかがでしたか？

千葉校長先生：最初は子どもたちがソップワーク小学校とどのように関わっていくかというのはとても難しかったようです。写真、映像などを見て、自分たちに何ができるのか、子どもたちなりに考え、アジアの子どもたちと関わり合いを深めていく中で、だんだん見えてきたと



横浜雙葉高校 校長千葉先生

いうのが他のNGOとの違いかと思います。他のNGOの活動の場合には、自分たちで調べて、どちらかと言えば物質的な援助というのが中心になっていました。しかし、AEFAの場合は何ができるかということと一緒に考え、『物だけじゃない、最終的には心のふれあい、物と心が両方必要なんだ』ということが見えてきたというのが、子どもたちが気づいたひとつの大きな収穫だったと思います。

Q：今後は、どういう展開をしていくお考えですか？

千葉校長先生：交流を一步踏み出し、現在は点でしかないものを、それを線にしたり、面にしていきたいと思っています。今は高2の総合学習だけでやっていますが、子どもたちが学園祭で展示、発表して、他の生徒たちに呼びかけている段階です。全校生徒がどのように関わっ

フレンドシップ校活動の紹介

磐田市立豊田中学校

11月2日、文化発表会で、ラオスのノイさんが豊田中学を訪問し、ラオスの教育事情についての話と、ミニコンサートを開催しました。生徒会でパチュドン小学校の子どもたちのために集められた募金がAEFA理事長に贈呈されました。



愛媛大学農学部附属農業高校

12月15日に農業祭が行われ、海外事情研究クラブがフレンドシップ校のラオス・アワイ小学校を初めて学内に紹介し、交流活動の第一歩を踏み出しました。

静岡英和女学院高校

今年度建設校タイ・ボカロン小学校・ファイヤー小学校と静岡英和女学院高校がフレンドシップ協定を結びました。

3月には17名の生徒さんがスタディーツアーに行くことになっています。12月にカレン族の文化と習慣、村の歴史、村人達の日常生活についての研修が行われました。

12月にはクリスマス献金も行われました。

ていけるのか、考えていきたいと思っています。

これまでビデオや写真を通じて現地の様子は随分見させてもらっていましたが、実際そこに行って、現地の子どもと交流する体験が、もしかしたら次の段階なのかなと思うんです。それを子どもたちが経験し、学校に持ち帰って、分かち合う。それをずっと雙葉の中で続けていきたいというのが、私の夢であり、希望でもあります。

Q：フレンドシップ交流を通じて校長先生はどういうことを期待されていますか？

千葉校長先生：今日本では、「自分たちが本当に恵まれていることに気がつかない」子どもたちの現実があります。そういう状況の中で自分に自信も誇りもなく、何をしたらいいのかわからない。子どもたちだけでなく、社会全体が閉塞状態で、いろんな事件が起こっています。日本の子どもたちに、もっと別の視点からアプローチすることによって「自分たちだってやれることがあるんだ」ということに気づいて欲しいのです。例えば、身近にいるアジアの子どもたちの生きている現実を見たときに、「このくらいだったら自分たちでもできるかな」という何かひとつのきっかけを与えてくれる気がするんですよね。この日本の社会の中だけで生きていると、受験の問題とか、いろいろなものがありますが、グローバルな視点から自分を見直すと、「自分も何かやれる」ということを知り、さらに一歩進んで、アジア、ヨーロッパも含めた世界の中で自分たちが少しずつできるものを考えるきっかけになればいいと思うのです。

いろいろな学校の先生方がアジアの状況を見て、子どもたちの教育、学校の現場、日本の社会を見直す大きなきっかけになればいいなと、私自身は思っております。



奉仕の日にソップワーク小学校の子どもたちのために袋縫いをしました

10月のフリーマーケットの収益金がAEFA理事長に贈呈されました



担当の伊藤先生からのコメントです



■実は高2の生徒に4つのNGOのどこを選ぶか希望を聞いてみたら、みんな私たちがやりたいと第1に手をあげてきたのはアジア教育友好協会だったんです。

■生徒がいきいきとした面を見せてくれます。普段の授業では受身の形が多い中で、自分たちが何か関わっている様子とはとても素晴らしいことだと思いました。

■これからも、高2のときにやったこのフレンドシップ交流、NGOとの関わりを自分の生活で意識して過ごしてくれたらなと思っています。

<2006年度AEFA建設予定校>

キナエ小学校 (ラオス・サラワン)

1年のうち9ヶ月は米不足の厳しい地域です。村では既に学校建設用地を村の中心部に確保しており、そこに学校を建設する予定です。学校菜園を作ったり、遠くから通う生徒のための寮も建設する予定です。



アソック・アーハー小学校 (ラオス・サラワン)

サモアイ地区からも遠く離れているために、地区・省からの援助も絶たれてしまいました。新しい学校は、床・壁がコンクリート、屋根は亜鉛引きの鉄板にする予定です。地域の他の村からも生徒を受け入れるよう5教室を作ります。

財公完小学校 (中国・雲南省)

1988年に建設された校舎は危険校舎認定を受け、柱や梁はひどく変形し天井の雨漏りや壁の亀裂など現在は使用停止状態です。現在の校舎を取り壊し、新校舎を建てる予定です。



景邁村小学校 (中国・雲南省)

1987年に建てられたもので、現在危険建築物として指定されています。村民が自力で資金集めをして校舎の改築や増築を試みてきました。今後は新しく校舎を建設する予定です。

タインタン小学校 (ベトナム・タインホア)

現在ある教室は老朽化が激しく、壁の無い教室も多く、電気も使えません。



アン・ルオン・ドン小学校 (ベトナム・トゥアティエン・フエ)

1930年創立でベトナムでは歴史の古い学校です。教室は老朽化が激しく、教室を建て替える予定です。

ホンティエン小学校 (ベトナム・トゥアティエン・フエ)

現在の分校は10m×10mぐらいの教室が1つあるだけで、そこを1～3年生が代わる代わる使用しています。しかもよく水害にあう場所のため、新しい土地に4、5年生も一緒に通える校舎を作る予定です。



フーカンB小学校カウチャー分校 (ベトナム・チャビン)

1975年前後に建てられた教室は老朽化が激しく、他の教室も竹造りで壁も無い状況です。トイレも竹の囲みのみなので、竹造りの校舎を建て替えて現在の古い校舎を修復し、衛生的なトイレを設置します。

トゥオン・ニョン小学校 (ベトナム・ヴィン・ロン)

校舎は日干しレンガ壁・トタン屋根でできており築後30年以上経過して荒廃しており、水道・電気・トイレもありません。そのため校舎ごと建て替える予定です。



ポカロン小学校 (タイ・チェム・ルアン)

11年前に建てた手作りの校舎は老朽化がひどく、トイレ・食堂等の衛生状態も悪いです。新しい校舎とトイレを建設し、食堂の改築も行う予定です。

ファイヤー小学校 (タイ・チェム・ルアン)

中学校が併設された学校で、教師達が寄付を集め村人の協力で造られた手造り校舎ですが、老朽化が激しくとても手狭です。校舎を新築する予定です。



2006年フレンドシップ校を募集中！HPもご覧ください
<http://www.nippon-aefta.org>
投稿・交流のテーマ・会員の声などお寄せください

<AEFA 友の会からのお知らせ>

お陰様で12月末現在、個人会員43名、法人会員2社、友の会にご入会頂いております。

2月に今年度建設校の計画確認、契約のために、現地パートナーNGOとのトップ会談がタイのチェンマイで行われることになりました。その際、AEFAスタッフはタイ、ラオス、ベトナムの三カ国の学校をまわり、皆様のご好意を現地の学校にお届けする予定です。その様子は次回の会報でご報告させていただきます。

新しく友の会に入会された皆さんです。ご入会ありがとうございました。(敬称略)

八重樫正・青葉浩・浅羽雅晴・石川文雄・加藤秀樹・佐藤洋一・佐伯栄昭・下平一晴・渋谷義彦・城臺一徳・正木一成・横山邦雄・椎野いさ代・宮坂美代子・小柳津敏行・風張ウタ子・壺岐尚子・鈴木恵子・俣スターランドコミュニケーション・池田興業(株)

アジア教育友好協会 Asian Education and Friendship Association (AEFA)

本 部：〒168-0071 東京都杉並区高井戸西2-14-49

連絡先：〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-15-16 海洋船舶ビル8F 電話 03(3506)7302 /FAX 03(3506)7301

Email: office@nippon-aefta.org URL: <http://www.nippon-aefta.org>